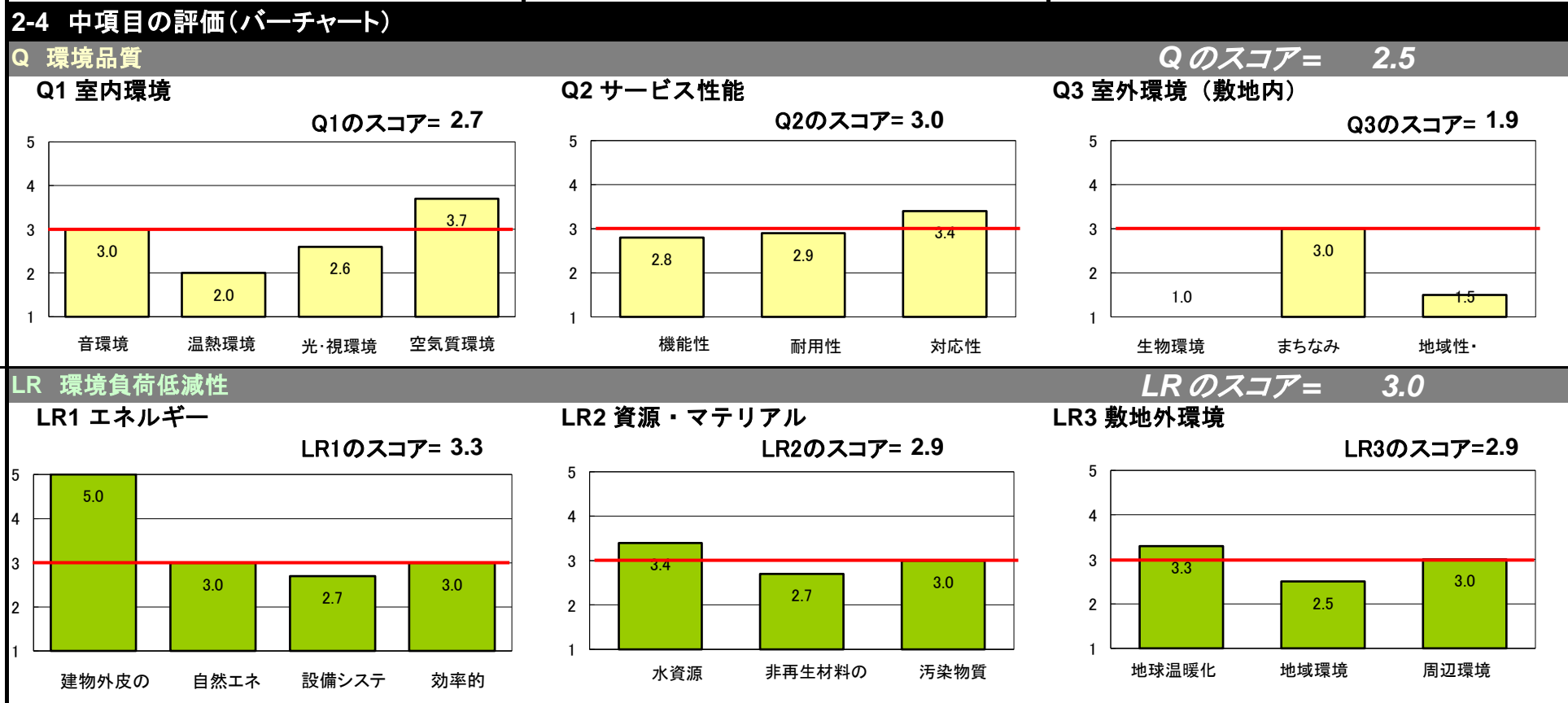
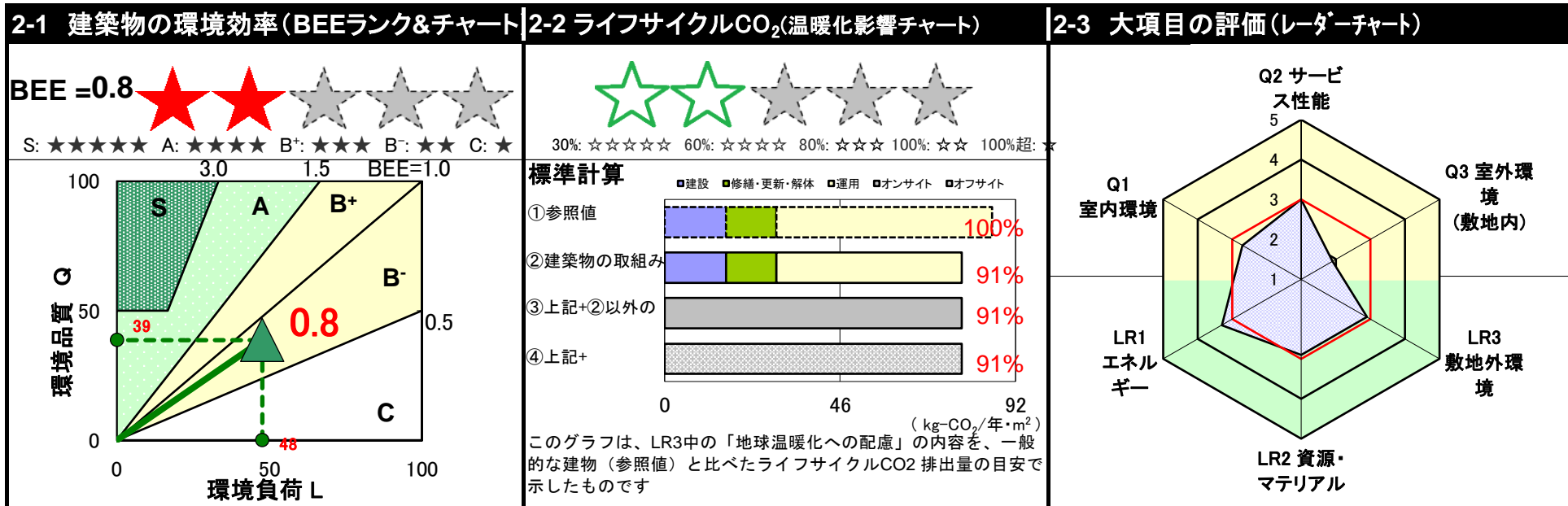


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社カトー精工 名古屋事業所	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県大府市梶田町一丁目131-1、132-1、133-1	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条区域内	平均居住人員	80人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年11月 予定	評価の実施日	2020年4月16日
敷地面積	1,783 m ²	作成者	松岡 文夫
建築面積	1,224 m ²	確認日	2020年4月17日
延床面積	3,227 m ²	確認者	松岡 文夫



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.3</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.5	
Q1 室内環境										2.7	
1 音環境										3.0	
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	-	-	-	-	-		
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-	3.0	0.60	-	-	3.0	-	-		
2 界壁遮音性能		-	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	3.0	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	3.0	-	-		
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	-	3.0	-	-		
2 温熱環境										2.0	
2.1 室温制御		0.3	2.0	0.35	-	-	-	-	-		
1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	3.0	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20	-	-	3.0	-	-		
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.30	-	-	3.0	-	-		
3 光・視環境										2.6	
3.1 昼光利用		0.2	2.6	0.25	-	-	-	-	-		
1 昼光率		0.3	1.8	0.30	-	-	-	-	-		
2 方位別開口		3.0	1.0	0.60	-	-	3.0	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	-	-		
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00	-	-	3.0	-	-		
3.3 照度		3.0	3.0	0.15	-	-	3.0	-	-		
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25	-	-	3.0	-	-		
4 空気質環境										3.7	
4.1 発生源対策		0.2	3.7	0.25	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-		
4.2 換気		3.0	4.0	1.00	-	-	3.0	-	-		
1 換気量		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-		
内装のほぼ全面にF☆☆☆☆の建材を使用											
完全に区画された喫煙室を設置											
Q2 サービス性能										3.0	
1 機能性										2.8	
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.8	0.40	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		0.3	2.3	0.30	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	0.33	-	-	3.0	-	-		
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
3 内装計画		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	-		
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上 壁長さ比0.12	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.36	-	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	1.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.79	3.0	5.0	0.24	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.14	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			3.0	2.7	0.43	-	-	-	2.7
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		トイレに擬音装置を用いている	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1		消火剤	-	-	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	-	
3		冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1		雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	
3		交通負荷抑制	独自	3.0	0.25	-	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1		騒音	独自	3.0	1.00	-	-	-	
2		振動	独自	-	-	-	-	-	
3		悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1		風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
2		砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-	
3		日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-	
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:10%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮し、シンプルで落ち着いた外観とした。
Q1 室内環境	化学汚染物質による内部の空気質環境に配慮し内装仕上げ材はF☆☆☆☆の建材を全面的に使用した。
Q2 サービス性能	階高3.8m以上、壁長さ比率0.12とし、建物内部の更新性に配慮したゆとりある空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	幹線道路に面した外構に緑地を配置することで景観に配慮した。
LR1 エネルギー	複層サッシを採用し、断熱性能の高い外壁を採用することで、高い断熱性能を確保し外皮の熱負荷抑制に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	トイレに擬音装置を設置することで水資源保護に配慮した。事務所床に再利用可能なOAフロアを採用することで非再生性資源の使用量削減に配慮した。
LR3 敷地外環境	高効率な設備を採用することでCO2排出量削減に配慮した。
その他	